

『ライトゲージ』 ～30周年記念ショートコラム～

凸凹なギタリスト生活も今年で30年になった。

いつから数えて30年かという線引きが極めて微妙で曖昧だがここはひとつ「ギターで報酬を頂き始めて」という事にしよう。

金をもらい始めてからカウントするなんてなんとも下品な！というご意見、苦言もありましようが。そこはひとつ長い目、大きな心でご容赦頂きたい。

たかだか、ワタクシの駄文、戯言。

あ、なんだ、こんなもんかと鼻で笑うもよし、鼻を摘むもよし何かの暇つぶし、冷やかしのついで、呑みのお供にでも読んで頂ければ幸いです。

何の為？誰の為に書いたの？

はっきり申し上げまして自分の為よ、はは。

だって忘れてくでしょ？ だんだんと。

記憶は風化され、記録は上書き改ざんされる昨今。
自身のゆるく険しい30年の歩みをここに記したい。

ライトゲージ

ミディアムでもヘビーでもない
少し軽く、ゆるい6弦コラムをどうぞ！

く 上 京 く

1987年3月26日 上京

兄が専門学校に通っていたので兄を頼って出て来た。
進学でも就職でもなく、何のあてもなくただ出て来た。

音楽活動に対する漠然とした憧れはあったが
どうすればいいのか全くわからなかった。

羽田空港に迎えに来てもらってモノレールに乗り
京浜東北線に乗り換え、降りた駅が東十条駅。

駅前の雑居ビル、ラーメン屋、赤提灯、スナック
パチンコ屋、映画館、ピンサロ、喫茶店、ラブホ。
島では見たこともない雑多な風景にビビりながらも
少し高揚感を感じたのを憶えている。

ああ、俺はここで暮らすのか。

それがこんなに永いこと住み着くとは当時は想像もしなかった。

まず最初にやった事。
テレビを観る事である。

石垣島は当時NHKしか映らなかったから、そりやもうびっくり。
チャンネルがっぱいあって何を見ていいのかさえわからない。
とりあえず一週間テレビを見続けた。

「笑っていいとも」「男女7人」 「あぶない刑事」「夕焼け」

面白かったけど突然の過剰な情報で脳内が混乱するだけ。
何が何だかわからないけど

世の中に多くの芸能人がいる事も知った。

近所にファミリーマートが出来たばかりで
『無印良品』という名前が印象的だった。

赤羽はまだ怖い街だった。

おっかないホンモノの人たちもゴロゴロいたので
駅前の居酒屋大都会、つば八に行くのが精一杯。

まだまだ奥の飲み屋街には入っていけなかった。

生まれて初めて赤羽のパチンコ屋に入った。
やり方も全く知らずに見よう見まねでやってみた。

すぐに大当たり！が、びっくりして店を飛び出してしまった。

周りの人が唾然としてたのを覚えている。

恥ずかしい。

無知って本当に恐ろしい。

俺はここで生きていけるのだろうか。

今思えば、あまりにも幼く

あまりにも情けない体たらくな18歳の春。

やがて「ヤバっ、何でもいから働かないと！」

アルバイトニュースやフロムエーなどの求人誌をむさぼり読んだ。
当時はバブル時代。

分厚い求人誌が全てを物語っていた。

音楽系の仕事もいろいろあった。

キャバレーとかクラブ、パブのバンド募集

とある音楽事務所はギター、ベース、ピアノ、ドラム奏者求む
なんてのもあってね。

履歴書書いて面接行って

「仕事の経験ある？」とか言われて

「いえ、ないです」

「じゃあ、ダメだよ」

はい、終了。

毎晩ステージをやってるような店に

スタッフとして採用されるが1日でクビ（笑）

「君はうちの雰囲気には合わないから」

でまたもや、はい、終了。

「じゃ、最初から雇うなよ」と帰りの地下鉄の車内で悔しくて涙したこともあったなあ。

有線放送のスタッフ募集にも飛びついたが車の普通免許が必須でね。全然ダメだった。

ヤバイ、東京、これかなり厳しいなと思った。

この先どうなるんだろう。

怖くなったと同時に途方にくれた。

ある日突然目に入った

「板前募集、初心者可、丁寧に教えます 勤務地・新宿」

「よし！」

求人誌のページをビリビリ破いて公衆電話の受話器を握った。

く 板前への道 ② く

子供の頃から働くのは好きだった。

牛乳配達、新聞配達、友達の家業を手伝ったり
タクシー洗う仕事(笑)とかね。

朝五時頃に会社に行って、夜勤明けのタクシーの運転手さんに
直接声かけてね車内を掃除して車体洗ってタイヤ、
ホイール磨いて一台につき500円貰えるの。

結構実入りのいいバイトだった。

車内に落ちてる100円玉、1000円玉は貰ってもいいことになった(笑)

高校三年の頃に飲食店の厨房でバイトしたこともいい経験だった。

ご飯でこういう風に炊くんだ。

カレーはこんな感じで作るんだ。

皿の効率のいい洗い方とか教わって。

だからすんなり板前の世界に足を踏み入れられたんだ。

親方というか板長(料理長)がものすんごい厳しい方でね。

元プロボクサー、血の気の多い方でね。とても怖かった(笑)

唯一、共通点というか気に入って貰ったきっかけがお互い島出身というね。板長は与論島出身の方だった。

「とりあえず1ヶ月休み無し！みんなは10時出勤だけとお前は9時な！」

一番先に入って、明かりをつけて、換気扇を回し、寸胴鍋に水を入れてガス台に乗っけてお湯を沸かす。

前日漂白しておいたまな板をゴシゴシ洗いながら冷凍庫から豚肉、鶏肉、牛肉を取り出し自然解凍させる。

今日使う食材の欠品が無いかチェックしながら野菜を取り出し水に浸ける。

揚げ物の油をいい温度になるまで温めておいて。

やることは山ほどある。

気付いた汚れとかは即洗ったり掃除したり。

そこでみんな揃ったら朝礼。慌ただしい一日が始まる。

バブル期だからね毎日忙しいわけよ。毎日毎日、満席で大入りだね。

とんでもない数の皿洗ったり、ゴミ捨て、片付け、明日の仕込み。

1ヶ月後、見事にぶっ倒れたよ(笑)
だって朝九時から夜十一時までよ！

終電近い電車で帰ってね。

労働基準法もへったくれもない(笑)
相当きつかったけど楽しかった。

包丁の使い方とか段々コツつかんでね。

浅草・合羽橋に包丁買いに連れて行って貰ったり
別店舗の親方から貴重な年代物の包丁頂いたりしてね。

だんだん、少しずつ頭から音楽のことが離れて行ってたのかもしれない。

「あれ俺、何してる？何やりたいの？」
たまに思ったりした。

〽 昭和のスター 〽

1987年のその年は鶴田浩二、石原裕次郎が亡くなった。

店長が肩を落としてた。

「俺の青春が終わったよ」とまで言ってた。

身内ならともかく往年のムービースターの終焉を
本当に哀しんでいる姿をただ呆然と見ていた。

僕は実際名前しか知らなかったからね。

鶴田浩二はNHKのドラマでかろうじて知ってただけ。

改めて情報の少ない島で生まれ育ったんだなあと思った。

厨房バイトで現役の俳優さんもいらっしやいましたね。

確か京都出身で北村さん？村上さん？というお名前でしたかね。

ある日テレビドラマに出ていてびっくりしたなあ。

僕よりも20歳以上も年上なのに「古見さん、古見さん」て
呼んでくれてた。

優しくて実直な方だった。

一度だけ一緒に飲んだのを憶えてる。
今も俳優業やられてるのかなあ。

く 雪 く

東十条のマンションの我が家は兄貴の同級生達の溜まり場。

毎日毎晩、誰かしらが居たし、誰が居候者かわからないくらい
入れ替わり立ち代り人が居た。
だから寂しくはなかった。

逆に独りになれる時間が欲しかった。

東京に住んでる実感はまだ湧かなかった。

三月も終わりになるうとしてるある日寒くて目が覚めた。
窓に何かが当たる音がした。

雪だ！雪。

うわー、雪が降ってる。

生まれて初めてみる雪だった。

今思えば、チョロッと降ったぐらいだったけど僕は興奮した。
手のひらに乗せてペロッと舐めてみた。
何の味もしない。当たり前だ。

東京に来たんだとようやく実感した。

く 池尻大橋 く

池尻大橋の駅の近くの安アパートで初めての一人暮らしをした。
四畳半、トイレ付き、日当たりゼロ、28000円

それでも自由、住処を得たので幸せな日々だった。

まだブームになる前の三宿近辺。

ラーメン屋の天下一品や吉野家で晩飯をかつ喰らい

世田谷公園で缶コーヒーとタバコで一服。

夜な夜なギターの練習したりもした。

SAX吹いてるジャズマンらしき人もいたし発声練習してる人もいた。

ギター習いに学校に行ったりしたけど肌に合わずに次第にフェードアウト。

怠け者気質なのか自己顕示欲が旺盛なのか。

兎にも角にも深く物事を考えない気質は多分にあった。

何も変わらない日々焦ったりイライラしてた。

近所にプールバー(懐かしい)があって

夜な夜なミュージシャン達が飲んでましたね。

ハウンドドッグの鮫島さんをお見かけしたりした。
ベルボトムのジーンズにブーツがかっこよかった。
足長えくなんて思ったりして。

深夜しかやってないラーメン屋の餃子が好きだったな。
タレに大根おろし、辛子を入れて食べるんだ。

今でもたまに246の池尻あたりを通ると胸がチクチクする。
苦い思い出の方が多い。

く 挫折 く

当時の新宿通りは日曜日になると歩行者天国になってバンド演奏や大道芸などで賑やかだった。

勤務先の上のフロアーが楽器屋さんで休憩時間とかにたまに遊びに行ったりしてね。

ギタリスト・鈴木賢司さんのミニライブとか目の前で観れてね。すげー、うまいなーとか思ってたね。

だんだん血が騒いできてね。

あー、やっぱりギターやるっつと！

音楽やりたい！と思うようになって。

オーディションみたいのを受けて、落っこちるんだけど別の事務所を紹介されて急遽既存のバンドでギターを弾くことになった。

しかし、しかし世の中そんな甘くはない。

ひどい扱いだし、あまりにも少額なギャラ (笑)

今でいうパワハラ級なこともよくあった。

とうとう本当にブチ切れてしまって

ある日突然辞めてしまった。

世間知らずで子供だったし
もっと真摯な態度で臨めなかったのか。
今思えばそこだけは懺悔するところ。

嫌で嫌でしようがない日々でも
たまに素晴らしいバンドや歌手のバックを
やらせて貰ったりね。

あいざき進也、ジャガーズ、アイ高野、加橋かつみ
ビジーフォーを観たのもその頃。

感動したなあ。
プロってこんなにすげえんだなって。

経済的に困窮し偏った食生活
不摂生で身体が少しおかしくなったのもその頃。

同級生のBEGINが華々しくデビューした1990年
彼らならプロになって当然だし
誇らしい気持ちにもなった。

「俺は何をしてるんだろう」
池尻大橋の安アパートの土壁をドンと小突いた。
惨めな気持ちだけが残った。

とにかく一回リセットしたくて島に帰ろうと思った。

荷物をまとめたり運んでくれたり

サヨナラを言いにはわざわざ会いに来てくれたりと

友達はみんな優しかった。

だから余計に悔しかったし、自分自身に腹が立った。

高座渋谷に住んでた柴田くん、元気かなあ。

引っ越されて手がかりが無いままなんだ。

会って改めてお礼が言いたい。

く キャデラック く

無計画で東京に出て行き、無計画のまんま島に帰った。
親にめちやくちや怒られて呆れられた。

そりゃそうだ。

こいつは本当に駄目だな奴だと思ったと思う。

最初の頃は知り合いのところまでバイトしたりした。
ゆるい生活で楽しかった。

ある日同級生の永敏くんから電話がかかって来た。
お店やるんだけどギター弾かないかと。
あまり気が進まなかったけどやることにした。

キャデラックというオールディーズ生演奏のお店。
毎日5ステージくらいやってたかな。

おんなじ曲を何回も何回も (笑)
飽きてくるんですよ実際。

いわゆるハコバンの宿命というか、マンネリという壁にぶち当たる。

悩んだ末、辞めて東京へ行こうと思った。
23歳くらいかな。

もう一回挑戦してみよう。

好きな娘と離れ離れになるのは嫌だったけど、今しかないと思った。
人生の分かれ目だと本気で思った。

恋愛は成就しないね、僕は。

く ローリー く

ずーとカバー曲ばかり演奏する日々にならず違和感を覚えていた。

弾いてる、演奏してる曲は誰かのオリジナル曲。

「いつか俺も」と思いながら少しずつ曲を作っていたが発表する機会がない。そもそもそこまでしたいと思わなかったし出来なかった。

沖縄のコザのバンド、THE WALTZのローリーと知り合いになった。

ローリーの書く歌の数々に完全に魅了された。

素晴らしいなあ、いいなあ、最高だな〜って

俺も曲作ってギター弾きながら歌いたいな。

頭の中、音楽に向かう姿勢がガラリと変わった。

だからといって、いい曲が出来るかどうかは別問題。

全てはセンス、才能がものをいう。

作っては捨て、作っては捨て。

「俺、ダメかも」

何度も思った。

く 再上京 く

再び上京した。

相変わらずアルバイトの日々。

この頃よく他の方のライブを見に行ったり勉強したりした。

BEGINのライブで知り合った先輩・城間健市さんと

Kens Clubというデュオを組んだ。

エレキ一辺倒からアコースティックギターを弾くようにもなった。

すごく練習したし、ギターという楽器の奥深さを知り始めた。

楽しくてしょうがない。

いろんなところで演奏した。

城間の兄さんの歌は超絶ワールドクラス。

僕の拙いギターではついていくのが大変だった。

兄貴の足を引っ張る形になってしまったのが申し訳なかった。

同級生の民謡歌手・大島保克のサポートやったり

一緒に曲作ったり

これまた同級生・香乃バンドやったり

シンガー姫野慎也さんのサポートやったり
ビセタケヒロと達也と3人でH A Y Aというバンドやったり

日出克さん、伊良皆誠さんとか島の先輩の
サポートしたりお世話になったりして。

そんなこんなしてる内に大きな出来事が起きた。

同級生と一緒にバンドやってた

ドラムの盛山達也が亡くなった。

骨髄異形成症候群という白血病の一種。

ものすごいショックだった。

同時にやっぱり頑張らないといけないなと思った。

彼が果たせなかった分

一生懸命音楽やろうと決めたんだ。

ちょうどK e n s C i u bも休止してたし、ソロでやりたかった。

でもいきなり一人では心許ないし恥ずかしいので

ベース、ドラムのトリオ編成でやった。

ベースに宮良高寿、ドラムに森正太。

初めてセンターに立って歌ってギター弾いた。

拙い歌と曲だけど自分の言葉とメロディー

自分のギターでライブをやれた。

今でもあの達成感は覚えてる。
もう32歳になっていた。

遅いよな、遅いよ。

遅いけど、かけがえないものを得た喜びに
年齢とかはどうでもよかった。

〽 入院 〽

朝起きてなんか変だなあと思った。
動き辛い感覚があった。

まあ昨日も飲みすぎたし二日酔いだろつと。

歯ブラシを口に入れて軽くウエツとえずいて歯を磨いて
水含んで吐いた。
とんでもない方向へ水がこぼれた。

あれ？と思いながらもう一度。
ありえない方向へ水がこぼれた。

鏡を見ると顔左半分が動かなかった。
え？と思い顔を動かしてみた。

やはり動かなかった。
やべ！と思いすぐ病院へ行った。

顔面神経麻痺と言われ、即入院手続きして下さいと。
薬を10錠くらいガーツ飲まされ、家帰って着替え持って即入院。

体はピンピンしてるのになんだかなあ

呑気に構えていた振りをしつつ内心はドキドキしてた。

後から聞いたら初期段階ですぐ投薬治療できたのが良かったと。後遺症も残らずに済んだと。

良かった。

20日くらい入院した。

8人くらいの大部屋には色んな患者がいた。

足を骨折した人、胃潰瘍の人、飲み過ぎで肝臓やられた人

盲腸の人、色んな人がいた。

顔面神経麻痺だけで入院させられるの？

そんな軽くて？みたいに言う患者もいた。

今思えば不良患者達の部屋だね。

外出許可ももらってこっそり飲みに行く者もいたし

トイレでワンカップ酒隠れて飲んでた人もいた。

僕は僕でタバコ吸ってたし。

それほど深刻に考えてなかったかも。

本当は絶対いけないんだけどね。

BEGINの3人がお見舞いに来てくれた時は病室がざわついた(笑)

後で「あなたナニモン？」て聞かれて

いや同級生なだけよって。

BEGINのサインくれて言われてね。

「あ、後でね」と適当に返事したり（笑）

でもホントに何事もなく無事退院できて良かったなと思った。そこから真剣に健康の事を考えるようになってね。考えて自炊するようになった。

なんか綱渡りみたいな人生だなと思った。ちゃんとしないとこの先あぶねーぞ、持たんぞと。

く カラオケ く

面白いバイトも経験した。

カラオケの歌詞に色を塗る仕事。

パソコンを操ってメーカー独自開発のソフト使っ
てね。

モニターに映り出された歌詞に

メロディーに合わせて色を塗っていくという作業。

しかもコンマ何秒先に塗りだし始める。

なかでも演歌は大変だった(笑)

もたったり、突っ込んだりするからね、メロディーの譜割が。

洋楽は比較的楽だった、基本インテンポだしね。

ビブラートとコブシは全然別物だねとか

邦楽と洋楽の決定的な違いを再発見出来たりして楽しかった。

その会社共同代表のSさんにはいっぱいお世話になったなあ。

ご飯食べさせてもらったりお酒飲ませてもらったり

ライブに来てくださったりと本当にお世話になった。

池袋、大塚、赤羽近辺でよく飲ませてもらいました。

元来の不精者で随分とご無沙汰してますが
お元気でおられる事を願っています。

く 日暮里 く

2年間だけ日暮里に住んだ。

たまたま友達が住んでて、飛び込んだ不動産屋で即決。
和室六畳、台所三畳の「ザ・昭和」を象徴する典型的なアパート。

完全な住宅街。飲食店、コンビニは近くにはなかった。

本格的に自炊し始めた。

作りすぎ、食べ過ぎで10キロくらい太ったなあ。

バイト先は赤羽。通勤電車も下りだからストレスフリー。

仕事終わりにSさんによく飲ませてもらった。

池袋が地元の方だからよく池袋に連れてってもらった。
和・洋・中、色んなお店を知っていた。

Sさんはギター弾きでピアニスト。
カントリー、ブルーグラス、ジャズと
幅広いレパートリーを持っていた。

目上の方には失礼な表現だが、育ちの良さが滲み出ていた。元々は新聞社に勤めていたらしい。

詳しく書けないが某有名女優とも浮名を流してたそうなの。

穏やかでガツガツしてない感じ。

大人の余裕を醸し出してた。

伊豆に別荘をお持ちで一度遊びに連れてってもらった。

高級車を涼しい顔で運転してた。

バイト契約が終了してもよく誘っていただいたなあ。

彩風の頃に一度お会いしてからご無沙汰してしまってた。

もう20年近くになるのかも。

今更どのツラ下げてという遠慮もあって

今は音信不通になってしまった。

大変お世話になったのに。

いつか、いつか恩返しを

と思ってるうちに時を経てしまった。

「ホントにお前ってやつは」である。

く 恋愛 く

恋愛も人並みにはしてたけど。

あまりうまくいった試しがない(笑)

2、3年付き合っていてよいよゴールインか！って時にポシヤるみたいな。

まあ、全ては僕の楽観的で鈍感な気質が
女性を不安にさせるんだろう。

基本的には愛想尽かされることが多い。

もっと決定的に悪いところがあるかもしれないが。

駄目男だったんだね、結果的には(笑、、、しかない)

最近は特に気にしてないかな。

まあ、なるようになる的な事かな。

そこがいけないんだろうね、「もっと必死に！」とか

「よし！婚活！」とかね。

思わないんだよな、これがまた。

他人に忠告受けても「だからよ」で終わる。

駄目だな、俺。

く 彩風 く a y a k a j i く く

また違う転機が訪れる。

BEGINの楽曲を女性ボーカルをフューチャーして
アルバムを作らないかという話から始まった。

仲田かおり、島尻哲明、夢乃あつし、私という4人で
『彩風 く a y a k a j i く』を結成。

ポンポンとレコーディングが進み「はい、デビューです」って。

「は？」という感じだったけど

この流れに流されてみようかな的な
気軽な感じでした。

楽曲制作、レコーディング、劇伴、ジングル制作、テレビ
ラジオ、ライブとそれなりに忙しい日々だった。

さだまさしさんの「夏・長崎から」

稲佐山コンサートに出させてもらったり
貴重な体験をさせてもらったりした。

しかしどうしてもというか、何て言うんだらうな。

限界がきたんです。

「お仕事やらされてる感」があつて。

おそらく僕だけが勝手に感じてた事だけなんだけど。

だんだん離れていくわけよ、気持ちが。

ついていけなくなったんだ。

メンバー、スタッフ、関係者には迷惑かけてしまつてね。

さあ、これからだ！という時だったからね。

それで辞めた。

夏の暑い日だった。

セミの鳴き声は鬱陶しかったけど心は夏空の様に青かった。

） Groovin ）

シンガーShyさんに誘われて『Groovin』に加入した。

ドラム・キース、ベース・寺岡信芳、私の4人編成。

旅がメインのトラベリンバンド。

手持ち楽器を乗用車に積み込んで

北は北海道から南は石垣まで回った。

全国各地に名物クラスの個性的なお客さん

対バンの素晴らしいライブ

美味しい地元料理、綺麗な景色、素敵な人達。

腹抱えて笑った事、ヒヤリとした出来事、全てが楽しい思い出。

年々本数は減ってるが未だ健在のバンドである。

Groovinつながりで私のソロをやらせてもらってる場所もある。

大都市だけではなく小さな街を訪れる楽しみは格別である。

みんな元気かなあ。

今年もまた初めての場所に行ける。

く 図書館 く

近所に図書館がある。

区がやってる小ぶりで丁度いいサイズ。

そんなに混んでないし、いついってもノンビリ出来る。

特別読書が好きなわけでもないが、なぜか落ち着く。

あのシソンとした雰囲気が好きなんだろうね。

日によって読む物も違う。

小説もあれば図鑑、地図、写真集も見る。

新聞もあるし週刊誌、漫画もある。

常連さんの顔もよく知っている。

話し掛けたりはしないが「あ、あのおっさん元気そうぞ」と少し安堵する。

地下には音楽スタジオもある。

私のファーストアルバム「Step」は大半の曲をここで録った。

機材、マイク持ち込んでね。

夜、静まり返ったただっ広いスタジオに

独りっきりでの作業はかなり怖かったぞ。

特に夏場なんかは涼みに来てる人が多い。

スヤスヤと寝息を立てながら本をザザッと落とす。
慌てて拾い直す。

それ見てるだけでも微笑ましい気持ちになる。

浅田次郎、伊集院静、西村賢太、西加奈子作品はここで出会った。

CDもよく借りた。

スガシカオ1、2枚目もここで出会った。

「Clover」「Family」「Sweet」は名盤だと思う。

あとジョニ・ミッチェルもここ。

く 弾き語り く

弾き語りをやってるといふ割には語らない事が多い。

どちらかといえば曲を演奏し歌うことばかり考えてしまう。

何人もの方にもうちよつと色んなこと

喋った方がいいんじゃないとか言われる。

曲のなりそめとか、こういう思いで作ったとか。

ん、難しいし、苦手かな。

やりたくないとか、いい悪いじゃなくてね。

どアタマのイントロを引き出す空気感

みたいなものを大事にしたいというか。

よく説明をしてから歌い出すシンガーに

お目にかかるんだけど

少し邪魔に感じることもあるんだ。

「それでは聞いてください、○○○」みたいな入りがね
どうも好きじゃない。

冷めてしまっんだ。

何曲かはいいと思うんだけど全曲それはちょっとね。

乱暴だけどいきなりザクツ〜と入ってくるギターが好きなんです。

悲しきロックンロール育ち。

） MTR ）

マルチトラックレコーダー

Roland VS1880EX

おそらく革命だったんだ。

低価格でデジタル録音出来てCD-Rまで焼けるレコーダーの登場は。

低価格といっても20万円以上もしたよ。

宮良信博（ちようちゆう）くんに勧められたんだ。

「健二にいい、買うならこれよっ」て。

全て鵜呑みにして購入した。

買ってすぐに後悔した。

訳が解らなかった。

何これ？の連続。取説との格闘。

こんな機械ぶっ壊してやろうと何度も思った。

それでも人生二番目に高い買い物だったから思いとどまった。

めげずに使っているとなんとなく出口が見つかった。

なんだそういう事か！なるほど簡単じゃん！

そういうもんだと思う。

触り続けてないとわかんないことがたくさんあるって事。

冷静に落ち着いて考え直せば意外とすんなりいく。

だんだんわかってきた。

僕は曲をガンガン作り始めた。

毎日毎日、録音した。

本当に楽しかったし、自由の良し悪しが客観視できるようになった。

自作デモ、彩風の初期、劇伴、ジングル

ソロアルバム（4枚目のLifeの何曲かまで）で使い倒した。

本当に最後の最後は倒れて動かなくなつた。

寿命だった。ご臨終。清々しかった。

いまだに目つぶっても操作できると思う（笑）

今はもうただのガラクタだけど。

捨てられないな、これは捨てられない。

僕の20代後半から今までを削除するようなものだからね。

。9「NON」

Y
e
s
o
r
N
o
?
D
e
l
e
t
e
?

〜 大島保克 〜

民謡とかほとんど知らなかった。

スタンダードなものを知ってたけど。

うちの親も全く歌ってなかったしね。

八重山民謡と沖縄民謡の区別さえ知らなかった。

大島保克と一緒に活動する様になって少しずつ教えてもらった。

やすーとは高校三年間一緒だったけどクラスになった事が
なかったから喋った事もなかった。

BEGINのライブで久しぶりに再会した感じだった。

歌ってた事も知らなかったから衝撃だった。

気持ちいいくらいに伸びる高音。

老成したかのような説得力。

ソングライティングの素晴らしさ。

何でこんなに凄いの？と感心した。

1stアルバム「北風南風」に参加させてもらってね。

今となっては光栄な事。

「イラヨイ月夜浜」の誕生の瞬間に立ち会わせてもらったからね。それはそれは貴重な体験でした。

よく一緒に飲んだし色んな話もした。

テレビ、ラジオ、お芝居にも出させてもらって一緒に演奏したりね。

後輩の面倒見のいい兄貴分な面と繊細で頑固な部分のバランスが絶妙だね。ずーっとみんなに慕われてる。

おもしろ話、ネタの宝庫でもある。

50歳になったやすーの唄を早く聴いてみたいのとゆっくり養生して欲しいのが行ったり来たりだけど。

楽しみに待ってるぞー やすー！